ので、無理して一緒にいるのはやめようと思いました」と美咲さん。

宗太さんは離婚を考えたことはなかったそうですが、結婚時の約束もあり、とくに反論することもなく、離婚を受け入れました。

子どもからのSOSで我に返る

離婚の手続きを進めるにあたり、問題になったのが親権でした。「子どもは私が育てるから、養育費を出して」という美咲さんに対して、「君が離婚を言い出したんだから、子どもは二人とも僕が引き取る。親にも話してある」という宗太さん。

何度か話し合いをしたものの、夫婦がお互いに自分の主張だけを繰り返し、話し合いは平行線をたどるばかり。本来、子どもの問題は子どもの立場で考えるべきことなのに、そんな大切なことさえ見失い、いつしか家庭内別居状態になっていました。そして、親同士が顔を合わせる度に言い合いをしている家庭の中で、子どもたちの精神状態は不安定になり、長男はちょっとしたことで友達に暴力をふるうようになり、長女は学校に行きたくないとぐずったり、行ってもすぐにお腹が痛いと言って保健室にこもるようになってしまいました。

「学校から呼び出され、〝ご家庭で何か問題はありませんか〟と言われて気が付きました。私も夫も自分の言いたいことばかり言い合っていて、子どもたちの気持ちをないがしろにしていたんです。調停の申立も考えていたのですが、このまま離婚しても子どもたちの心に傷が残ってしまうと思って、改めて夫と話し合いました」と美咲さん。

お子さんたちの必死のSOSが二人の心を動かしたのでしょう。宗太さんと美咲さんは冷静さを取り戻し、現在は休戦中。

宗太さんは「美咲が言うこともわからないわけじゃない」と言い、美咲さんも「夫が家族のことを第一に考えていてくれることはわかりますし、夫の言っていることも理解はできるんです」と互いに歩み寄りを見せており、関係修復の可能性も見えてきた様子。焦らず、ゆっくりと二人の関係を見直していってほしいと思います。



●おかの　あつこ

立教大学大学院21世紀社会デザイン研究科博士課程前期修了。結婚・離婚・再婚・恋愛など、男女に関する相談全般を手掛けるライフアップカウンセラーとして活躍中。自身が学び、お相手探しもできるウェルアッププランナーや幸せのお手伝いをするマリッジカウンセラー、離婚カウンセラーの講座がOLや主婦に人気。創立16周年を迎えるNPO法人日本家族問題相談連盟の理事長も務める。【近況】少し前に熟年離婚がブームのようになり、“卒婚”という言葉まで生まれて相談も増えましたが、本当に離婚をする必要があるとは思えない方も多いのです。「離婚して後悔する前に、じっくり考えて！」と言いたいですね。